

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (四国)	良くなる	通信会社（営業担当） 設計事務所（所長）	・本格的な新生活シーズンを迎え、需要が高まる。 ・消費税増税を見越して、9月までに建築等を発注しようとする客が増えている。
	やや良くなる	商店街（代表者） スーパー（店長） コンビニ（店長） 衣料品専門店（経営者） 衣料品専門店（経営者） その他専門店〔酒〕（経営者） タクシー運転手 タクシー運転手 通信会社（社員） 通信会社（企画） 通信会社（営業担当） 通信会社（支店長）	・街全体のにぎわいが続いている。新入学シーズンを迎えることで、新しい学生等も増え、大学生や近郊にある高校生の来街が増えている。通行量の増加、若年層の取り込みも期待できる。 ・特に理由はないが、景気が上向いてくるのではないかと感じる。 ・節約志向から、緩やかではあるが良くなっていると感じる。 ・原油安がプラスに作用するのではないが。 ・2月から春物衣料を徐々に入荷するので、客足も少しずつ増加する。洋服業界はどこも厳しいが、春に向けて多少は良くなるだろう。 ・2月以降は少しずつ暖かくなって飲み物も売れてくる。 ・やや良くなると判断する。入学、入園、入社、異動などの行事の折にタクシー利用が増える。それから、高知でも少しずつ外国人観光客が増えており、バスで来て、観光地をめぐって、またバスで帰るというパターンが多い。 ・春になると、夜に歓送迎会が多少なりともあるので、少しは動き出す。お遍路は2月末から3月初めにかけて本格的に始まる。うるう年の今年は「逆打ち」する人も多いので、例年よりずっと良くなると期待している。 ・安倍首相の発言に対応した各社の料金が発表される可能性があり、若干の販売数の伸びが期待される。 ・引き続き上向きではないかと感じる。 ・春商戦が本格化し、新しい販売施策にも期待できる。 ・政府の景気浮揚策に期待している。
	変わらない	商店街（事務局長） 一般小売店〔文具店〕（経営者） 一般小売店〔生花〕（経営者） 百貨店（営業担当） 百貨店（販売促進担当） スーパー（企画担当） スーパー（財務担当） コンビニ（総務） コンビニ（商品担当） 衣料品専門店（経営者） 衣料品専門店（総務担当） 家電量販店（店員） 乗用車販売店（従業員） 乗用車販売店（従業員） 乗用車販売店（従業員）	・寒さが季節商材に動きをもたらしているが、株価の低迷や先行き不透明感が重しとなり、レジャーや体験型消費、宝飾、貴金属を除き全体に見通しとして暗い。春に向け、株高、企業の好成績、政治の安定が望まれる。 ・今のところ、好転する格別の要因が見当たらない。 ・春の異動シーズンでの人出は平年並みを見込んでいるが、消費単価は低くなる予想している。夜9時以降の外の飲酒を禁止している大手企業も出てきて、繁華街の消費に響いてくる。 ・まだまだ客の財布のひもは固く、店頭の販売量がプラスとまらない。 ・食品、大型テナントは堅調予想であるが、衣料品で苦戦しているトレンドが継続している。 ・原料高騰による価格の変動はまだ続くとみられる。 ・高品質や高単価商品が売れる傾向ではあるが、株安などで基本的に消費マインドは盛り上がらない。 ・天候や気温に影響されるが、景気が良くなる要因が見当たらない。 ・よくなる気配は感じられず、地道な取組を続けていくしかない。 ・日銀のマイナス金利報道を受け、多少はムードが変わるかもしれないが、現状はなかなか厳しい。 ・気温の変化によるところが大きいのが、客の様子からは景気の良い話は聞こえて来ず、厳しい現状のまましばらくは推移するのではないかと考えている。 ・下見に来る客は安価商品ばかりで見積するなど、今後も低単価傾向が続く。 ・年度末にむけて、車検を迎えるユーザーが増えるので、代替と車検入庫の増加に期待しているが、今のところ、思うような見込み客数ではない。 ・ガソリン及び灯油、軽油の価格が下がり、家計への影響が大きく、有り難いと言った話をよく聞く。ガソリンが安いので遠出を考えていると話す客もいる。 ・来客数の増加は見込まれるが、景気は変わらない。

	乗用車販売店（営業担当）	・ 2～3月で前年比10%以上割り込む可能性が大きく、4月以降は不透明である。
	乗用車販売店（役員）	・ 例年2～3月はだいたい横並びであるが、今年は車の販売が少しは伸びると見込んでいるが、相対的に変わらない。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・ 天候が落ち着けば、元の状況に戻るとみている。
	スナック（経営者）	・ 今の景気状況では何も変わらない。
	観光型旅館（経営者）	・ 今の政治経済情勢をみて、しばらくは変わらない。外国人が増えている点是否定しないが、そんなに大きく観光客が伸びるということは考えられない。予約状況を見ても、2～3か月先は例年通りの見込みである。
	都市型ホテル（経営者）	・ 今の予約状況は昨年と比べて良くない。3～4月になると若干、人の動きも出てくると期待しているが、現在の予約状況は昨年より悪く、あまり現状と変わらない。
	観光遊園地（職員）	・ 来客数の動きから、油断できない。
	ゴルフ場（従業員）	・ 全体的な面からと他社の状況を把握し、予約状況などをみるとあまり変わっていない。
	競艇場（職員）	・ 2月には各地区の地区選手権が開催され、地元選手の活躍が期待される。実力選手、若手選手の活躍がレースを盛り上げ、売上増加につながると思われる。いずれにしろ、各選手の活躍が鍵を握っている。
	美容室（経営者）	・ 消費者のなかで来店頻度と単価の低い状態が定着している。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・ 地方経済は中央に比べ遅れているうえに、株価の下落等の経済不安により消費動向の活性化がさらに遅れる。
	住関連専門店（経営者）	・ 年明け以降、株価が下落していることから、買物に対して慎重になるのではないかと。
	旅行代理店（支店長）	・ 海外旅行需要の回復の見通しが立たない上、国内でのバス事故の影響でスキー等バス旅行需要の減少が懸念される。
	美容室（経営者）	・ 人材の確保が難しく、スタッフが不足している。
悪くなる	商店街（代表者）	・ 消費税10%アップの対応が今後いろいろな形で問題になる。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・ 景気が良くなる要素がない。
	コンビニ（店長）	・ 昨年も前年比マイナスだったのに、今年も前年比マイナスが続き、このまましばらく悪化していくと思われる。小売り業界は体力勝負のみとなりつつある。
企業動向関連 (四国)	良くなる	-
	やや良くなる	-
	農林水産業（総務担当）	・ 気候が良くなれば、売り出しによって需要は増えると期待している。
	食料品製造業（商品統括）	・ 円安により輸入価格が高くなっているものの、エネルギー価格の下落により、国内回帰の流れが加速する傾向になっている。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・ 今の状態を維持すれば、3～4月は確実に売上は増加し、利益も増えてくる。
	電気機械器具製造業（経理）	・ 得意先からの受注が微増すると予測している。また、増販に伴う粗利の微増も見込んでいる。ただし、市場環境の変化や新製品の投入等のトピックは予想していない。
	変わらない	-
	食料品製造業（経営者）	・ 一般消費者の所得が上がらず、いまだデフレ脱却が出来ない中、原材料高騰等により中小企業の利益率は上がらないと推測する。
	繊維工業（経営者）	・ 全体的に景気の先行きが見通せず、円高、株安など不安材料もあり、良くなるとは思えない。
	木材木製品製造業	・ 年明けの取引先状況をヒアリングすると、展示場集客状況が前年対比で若干だが上回ったと答えた先が多かった。新興国や資源国の景気減速といった懸念材料はあるものの、本年度は前年並みのやや良好な水準程度は十分に期待できる。
	建設会社（経理担当）	・ 工事の発注は一般住宅を含めて増えているが、競争が厳しく、景気は変わらない。
	建設業（経営者）	・ 補正予算成立でどれだけ公共事業が出るかによる。
	輸送業（営業）	・ 例年であれば3月頃から初夏にかけては促成栽培による青果物の生産が増大し消費拡大に繋がるが、菜種梅雨長期化等の影響を強く受けた昨年の事例もあるので天候次第である。年度末の3～4月は就学・就職の時期とも重なり消費拡大が見込まれると同時に、引越し等の運送案件も集中する事から購買意欲の向上による景気の好転を期待する。
	通信業（部長）	・ 大きく変化する要素が見当たらず、今後も同様な動きになると考える。
	金融業（副支店長）	・ 2～3か月程度で景気が上向き、資金需要がおう盛になるとは考え難いが、反面悪化するような動きも見られない。

	広告代理店（経営者）	・瀬戸内国際芸術祭等による交流人口増加により、一部の関連得意先からは好調見込みを聞くが、多くの得意先ではあまり変わらない。
	公認会計士	・道後地区においては設備投資が前向きに検討されているが、松山市内においては設備投資に前向きな意見はあまり聞かれない。不動産等で少し動きがあるようだが、経営者の話を聞くと、もう少し様子を見たいという意見がほとんどである、景気に変動はない。
やや悪くなる	鉄鋼業（総務部長）	・造船関連の受注は現状維持見込みだが、スクラップ価格、原油価格の値下がりやを理由に販売価格の値下げを要求されており、売上金額減少が予想される。
	一般機械器具製造業（経理担当）	・金融資本市場の変動の影響、中国経済減速による影響、地政学的リスク、原油価格動向など、不透明感が増している。
	建設業（経営者）	・年度末以降は手持ち仕事量が大きく減り、また新規発注が少ない時期でもあり、必要な受注量が見込めないことから、業界の景気は悪くなる。
	輸送業（経営者）	・期待と不安とでは、不安の方が大きい。
	輸送業（支店長）	・原油価格の下落は非常に有難い事ではあるが、資源価格の下落による景気の冷え込みを懸念する。
悪くなる	-	-
良くなる	-	-
やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・依然として求人倍率は高止まりで、労働者は売手市場にある。企業の生産と一般消費者の消費が高まれば景気が上向く兆しもみえる。
	求人情報誌製作会社（従業員）	・本格的な異動時期に入り、求人数の増加が見込める。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新規出店がわずかながら見えてきたことと、消費税増税が近づき、そろそろ高額商品が買われ始める。ただ、広告予算を増やす声は無く、企業マインドは上がっていないので多くは期待出来ない。
	職業安定所	・12月の有効求人倍率は1.37倍となり、前月比で0.02ポイント、前年同月比で0.17ポイントそれぞれ上昇した。今後も良くなる。
	民間職業紹介機関（所長）	・次年度用の求人については数多く受付終了しており、企業側の新卒者を採用したいという意欲が強く感じられる。また、本年度に採用人数が充足出来なかった中小企業においては、次年度分に採用人数を上乗せしているケ - スも多く見られる。
変わらない	人材派遣会社（営業）	・新年度に向けて人事が動き、人材の入れ替わりと、新たな求人案件が出てくる。
	求人情報誌（営業）	・長期にわたる人材不足の状況は引き続き変わらず、大きな改善策が見当たらない。企業は即戦力の中途採用から新卒採用にシフトチェンジを図るところが増えてきた。実際に採用されるのは来年度以降のため、数か月先は変わらない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・求人に関する問い合わせは、就活の時期変更に関する問い合わせを除き、ほぼ例年どおりで推移している。
やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・求職者数が目に見えて減少しており、求人にかかる経費が増加しているが、就労につながりにくい。
悪くなる	-	-